

令和4年度 自 己 評 価 表

鳥取県立琴の浦高等特別支援学校

中長期目標 (学校ビジョン)	○社会の中で自立して生活ができる力を育成する ○職業生活に必要な意欲と能力を育成する ○豊かな人間性、たくましく生きるための心と体を育成する	今年度の 重点目標	・職業人としての基礎的な力の育成（授業改善、職業教育・進路指導、生徒指導） ・地域社会とつながりながら生きる力の育成 （地域・企業連携、自治的活動、啓発・広報活動） ・働きやすい職場、一人一人が成長できる組織作り（人材育成、時間外業務削減）
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初				評 価 結 果 (10)月			
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
職業人としての 基礎的な力の育成	○授業改善 ～「考える力」をつける～	○計画的な教科グループでの話し合いや授業公開、および授業実践シートの作成等を行うことで、教職員の授業改善への意識が高まってきた。 ○大規模な人事異動により様々なキャリアの教職員が在籍しており、教職員一人一人の専門性や授業力の向上をねらった取組が必要である。	○生徒の「考える」姿が見られるように、教職員が日々の授業を振り返り、授業改善に取り組んでいる。	○教科グループで授業づくりの研修会を行い、授業展開や重点事項等について職員で共有する。 ○外部講師を招聘し、専門性の向上をねらった研修会を行う。 ○授業研究会を行い、授業を振り返り、授業改善を行う。 ○教育検証プロジェクトに継続して取り組み、教職員で成果と課題について共有する。 （就労準備性チェックリストの実施）	○教科グループ毎に話し合いを行い、重点事項を共通理解し、日々の授業実践に取り組んでいる。 多くの教科で1回目の授業公開を終え、授業改善に向けての検討を行った。 ○大学教授を招聘し、研究テーマに関する研修会等を設定し、教職員の授業力向上に努めている。 ○教育検証プロジェクトの結果を全教職員に伝え、生徒の課題について共有した。	B	○1回目の授業公開を基にした授業改善を行い、12月までに2回目の授業公開、およびグループでの検討会に取り組む。 ○校内ネットワークを活用して、教科グループでの取り組みを共有する。 ○就労準備性チェックリストの結果を分析し、成果と課題を整理する。（教育検証プロジェクトの継続）
		○前年度の生徒アンケートの「授業はわかるか」「授業は楽しいか」は、肯定的な回答が増加した一方で、「わかる」の上位回答が低下している。 ○「考える力をつける」授業づくりに取り組んだことにより、職員アンケートでは9割超の指導者が、意欲が育ちつつあると感じている。	○学習の基礎となる「学習のルール」を守り、自らが考え、学ぼうとする意欲が育っている。 ○生徒アンケート「授業は楽しい」の回答が前年度と同程度を維持し、「授業がわかる」が増えている。	○「考える力」をつけるための授業改善を、教務部と研究研修担当が連携しながら取り組む。 ○より学習に集中して取り組めるよう、「学習のルール」の定着を図ったり、学習環境を整理したりする。 ○授業改善の取り組みを促進するため、後期に集中していた教科会を年間を通して実施できるようにする。	○「学習ルール」を守り、考え学ぶ意欲の育成について、教職員アンケートでは「概ね達成」が4割、「変化の兆し」が4割の回答。 ○生徒アンケートの「授業は楽しいか」は7割、「授業がわかるか」は9割が肯定的評価で、ともに前年度よりも増加。	B	○月1回の教科会で、引き続き具体的な方策を検討する。 ○令和5年度年間指導計画の作成にあたり、3観点による学習目標と評価基準の設定や学習内容の明確化を図り、わかる授業に繋げていく。
	○職業教育・進路指導の 充実 ～自分を見つめる～	○専門教科の目標の共有が不十分である。また、人事異動に伴い、技術力等の継承が課題となっている。	○一般就労という目標を全職員が共有し、指導に当たっている。 ○各コースの技術等が継承されている。	○学科会や担当者全員で行うコース会の内容を再考する。 ○進路と連携し、研修等を行う。	○年度当初の学科全体会で専門教科についての研修を行った。また、学科会やコース会を通して、一般就労という目標の意識づけを行った。 ○各コース、技術の継承を意識しながら日々の業務を行っている。	C	○一般就労という目標の意識づけと技術の継承を意識した日々の業務を、継続して取り組んでいく。
		○生徒一人一人の働くための課題について、専門教科の学習で解決しようとする意識に差が見られる。	○現場実習での生徒一人一人の課題をコース担当者及び生徒自身が理解し、専門教科の学習を行っている。	○生徒の課題について、指導する教員全員で共有することを促す。また、生徒が自分自身の課題を意識できる授業づくりについてコース会等で話し合う時間を確保する。	○コース会で「職場を意識した授業の雰囲気づくり」について話し合いを行った。 ○教職員アンケートで生徒一人一人の課題を把握して指導しているとの回答が半数以上だった。	B	○生徒が自分自身の課題を意識して授業に取り組んでいるかの現状把握、課題を意識できる授業づくりのための方策を話し合う時間を設ける。
		○自己理解が難しく、進路選択の見極めが不十分な生徒がいる。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性が不十分なままに就職する生徒がいる。	（1年生）自分の良さと課題を理解している。 （2年生）自分の適性をふまえて、進路を具体的に考えている。 （3年生）自分の適性をふまえて、進路を選んでいる。	○現場実習の学びが日々の学習や生活につながるように、学年団や学科部と進路部が連携して計画的に職業教育を実施する。 ○働く意欲や心構え、基本的な職業準備性を身に付けるきっかけとして、生徒、教職員に対して授業や研修、通信等で卒業後の生活に関する情報を発信する。	○現場実習では、学年団と相談をすることで生徒の希望や適性に合った企業の選定ができつつある。 ○生徒、教職員に対して授業や研修で情報提供を行っており、意識の向上につながりつつある。	B	○現場実習と授業のつながりを意識して、引き続き学年団と進路部の連携に努める。 ○生徒、教職員の進路指導に対する意識を更に向上させるために、引き続き授業や研修で情報提供を行う。
	○生徒指導、生活指導 ～よりよい生活習慣、判断力をつける～	○多くの生徒がSNSを利用している。 ○生じたトラブルについて、生徒だけで対応してしまうことで拡大・複雑化してしまうこともある。 ○SNSの使用時間や内容によって生活リズムが崩れたり、学習に向かえなかったりする生徒もいる	○保護者とともに決めた携帯電話等の使用ルールを守ることができる。	○保護者とともに「我が家のルール」を作成し、定期的に見直しを行うことにより、使用ルールの意識や再確認を促す。 ○個人懇談等を通じて、保護者と情報共有を行う。 ○具体的なネットトラブル事例を題材とした生徒・保護者・教職員対象の各講演会や研修会を実施する。	○携帯電話等の持込許可条件として「我が家のルール」の作成・提出を継続。原本は家庭で保管し、写しを学校で保管。いつでも確認できるようにしている。 ○学校外での使用時、特にSNSでのトラブルが生じたり、設けたルールが守れなかったりしていることもある。 ○非行防止教室等、全生徒を対象とした外部講師による講演会を実施し、携帯電話等の安全な使用等についての学習の場を設けた。	B	○使用のきまりを再確認するため、「我が家のルール」の確認・再設定・再提出を行う。（年末頃） ○保護者対象の研修会を計画・実施し、安全な使用について家庭との共有を図りたい。

		○学校生活アンケートで挨拶や返事、言葉遣いができていない、生活リズムが整っていない、学習ルールが守れていないと答えている生徒が2割程度いる。また、できていなくてもできていると答える生徒もあり、基本的な生活習慣が十分に定着していない。 ○自己肯定感が低く、すぐにあきらめたり自らの課題に向けて具体的な行動に移せなかったりする生徒がいる。	○生徒が自分の生活や行動に課題意識を持ち、改善するために生活や学習の中で取り組んでいる。	○基本的な生活習慣や規律を守ることがなぜ大切なのか、将来にどのようにつながるのか職員間で共通理解し、LHR等で随時指導する。 ○担任面談や学習の中で、生活や学習態度を振り返り、どうしたらよいのかを考える活動を設定する。 ○課題に向けて具体的な行動をスモールステップで一緒に考えたり、できるようになったことを確認したりする。	○生徒アンケートで挨拶や返事ができていないと回答した生徒が3割おり、前年度よりも増加している。また、学年が上がるにつれてもその割合は増えており、職業人としての意識につながっていない。 ○生徒との個人面談や現場実習の振り返り等を通して、個々の課題や具体的にどのように取り組んでいくのか確認している。9割の生徒が目標や課題に向けて取り組んでいると回答しているが、「できている」姿が指導者と一致していないなど自己客観視ができていないこともある。	B	○挨拶、返事、言葉遣いがなぜ大切なのかを実習の振り返りや個人面談時等、様々な学習の中で随時確認をし、特に意識して取り組めるようにする。 ○他者評価を取り入れ、自己評価とのズレから個々の課題や目標を明確にする。具体的に取り組む内容を生徒自身が考え決定できるよう相談する。 ○「できている」姿を共通理解する。
		○ブラッシング指導等、歯と口の健康に向けての取組後、歯の治療率が一昨年度の30%から昨年度は50%に増えた。しかしながらまだ半数なので引き続き取組が必要である。	○自らの歯と口の健康に関心を持ち、課題を見つけ、主体的に行動できる自己管理能力が育成されている。 ○地域や家庭と連携し、関係機関の協力を得ながら課題解決に取り組むことができる。	○関連教科で時期に合わせて取り扱い、理解を深める。 ○委員会活動を通して、啓発を行い理解を深めていく。 ○保護者・地域との連携を強化していく。	○計画通り家庭科、保健体育科で歯と口の健康に関する指導をしているが、歯科検診後の受診行動には課題がある。 ○保健給食委員会を中心に生徒が主体となって活動に取り組んでいる。 ○歯科衛生学習に向けて学校歯科医と情報共有をしたり保健だよりで情報発信をしたりしている。	C	○今年度計画をした内容とともに、計画外の活動も積極的に取り入れていく。 ○様々な委員会活動や部活動を通して更なる啓発を行っていく。 ○学校保健委員会等で関係機関から助言や情報提供を受ける。
		○挨拶・掃除・整理整頓など、寄宿舎での基本的な生活習慣が定着していない舎生が多い。	○基本的な生活習慣が身に付き、定着している。 ○1年生はゴールドマイスター9割、2・3年生は生活の達人8割。	○マイスターチェック表を基に職員間で情報交換をしたり、舎生と面談をしたりして、定期的に振り返りを行う。	○定期的にチェックや面談を行うことで基本的な生活習慣に関して意識はできているが、定着するまでには至っていない。 ○1年生（6名）は全員シルバーマイスター。 ○2・3年生（17名）の生活の達人は4割。	C	○今後もマイスターチェックと面談を継続する。また、必要に応じて、個々の課題に対応したチェックを行う。 ○6月半ばから「認めあいの木（良い所見つけ）」の取り組みを開始。好ましい言動を知り、自身の言動へとフィードバックできるよう促す。
	○学校運営協議会の活用（地域連携・企業連携の充実）	○昨年度、2回の会議を実施した。コロナ禍により、校外での学習等の実施が難しいことはあったが、その中で地域や企業との連携を図っていく視点で協議を行った。	○幅広い分野から参加いただいている委員の方からの助言を受けながら、本校の教育活動の可能性を広げていく。	○コロナ禍の中でも、可能な地域や企業と連携した取組についての助言を受けながら、現在の状況でできる活動を推進していく。	○学校運営協議会での助言を踏まえ、地域や企業と連携した取組（ことカフェ・清掃活動、白バラ乳業とのコラボレーション等）に継続して取り組んだ。 ○Facebookを活用した地域・企業への情報発信について、寄宿舎も加えて発信できた。	B	○学校運営協議会での助言を活かし、コロナ禍に応じた対策や工夫をしながら地域や企業との連携を進めていく。 ○引き続き、Facebook・学校便り等で学校・生徒の様子を発信し、学校運営協議会での今後に向けた取組の協議につなげる。
		○昨年度は新型コロナウイルス感染症への対応により、企業を対象とした学校公開が一度しか実施できなかった。 ○企業とのつながりをつくる工夫が不十分である。	○幅広い分野から参加していただいているという強みを生かし、情報提供を受けるとともに情報発信を行うことで連携が推進されている。	○企業へ向けた情報発信やつなぐの作り方を検討し、コロナ禍においても積極的に連携する。 ○学校運営協議会において、就労の視点も含めて協議を行う。	○積極的に企業新規開拓をし、本校の取組や障がい者雇用について情報発信を行った。コロナ禍において、チラシの送付やオンライン等の方法を取り、周知することができた。	B	○就労促進セミナーを実施し、更なる情報発信と啓発を行う。 ○企業との連携を進めるために、学校運営協議会で引き続き就労の視点を含めた情報共有や協議をする。
	○自治的活動の推進～生徒が考え行動する～	○学校生活に対して自分なりの考えを持っている生徒は多いが、自主的に発信しようとする意識が少ない面が見られる。	○よりよい学校生活を築こうとする意欲・行動力を身につけ、生徒が自発的に問題点や課題等を改善・解決するために考えている	○生徒主体による、全校レクリエーションを行う。（自信につなげるために、無理のない範囲で準備・運営を行う。） ○生徒総会を、年間2回実施する。	○全校レクリエーションが天候不順のため中止になったが、準備段階まで生徒会執行部中心に意欲的に活動する姿が見られた。 ○生徒会役員選挙では、自分の意見をはっきりと述べる生徒の姿が見られた。	B	○少数意見が尊重されたり、生徒の意見が反映されたりする場を設定していく。 ○生徒会執行部を中心に、「自ら考えて行動する」という意識を高めていく。
		○寄宿舎でのサークル活動があまり活発ではなく、活動するときも寄宿舎職員が主導して行うことが多い。	○舎生が主体的にサークル活動を計画・運営し、どのサークルも月1回程度は活動を行う。	○サークルの結成から舎生自らが行うようにする。サークル結成後はサークル顧問が助言をしながら、舎生が主体的に活動を計画・運営するようにする。サークル活動費の請求も舎生が行い、サークル運営に関して責任を持たせる。	○生徒自らがメンバーを集め職員に担当を頼みサークルを結成した結果、3つのサークルが誕生した。	B	○今後は具体的な活動が継続するように支援する。
		○例年に比べ、部活動に参加する生徒が減少している。 ○部活動で運動したり文化活動をしたりたいと考える生徒も一定数いる。 ○コロナ禍で、イベントや大会が中止となったり、休日や余暇活動として活動できる場が少なくなったりしている。	○休日や余暇の時間に、運動をしたり文化活動をしたりする生徒が育っている。 ○将来的にも運動や文化活動に参加できる環境が整っている	○部活動参加率を昨年度より上げる。 ○部長会の活性化を進め、生徒が主体的に活動できるようにする。 ○生徒の活動場面や大会参加状況について情報発信を行う。（ホームページ・Facebook） ○地域のスポーツクラブや文化活動を紹介するとともに、参加生徒から楽しさを伝えられるようにする。	○いろいろな大会が再開されてきて生徒のモチベーションは上がっている。ホームページのアップが少ない。 ○各種スポーツ大会のチラシを掲示するが、参加がない。 ○部活動加入率は低下している。	C	○各部で部活動内容を工夫し、魅力ある部活動にしてい く。 ○大会の様子等をホームページにアップするよう努める。 ○生徒の自主的な活動を尊重できるよう、顧問同士の連携を深め、協力し合う。

	○啓発・広報活動の工夫 (保護者、地域住民、 小中学校、企業等)	○コロナ禍により、 対面による啓発・広 報活動が縮小を余儀 なくされている。	○Facebookや学校ホーム ページ、学校だより等の 様々な媒体で、地域や企 業、入学を検討している 生徒に対し、学校の啓 発・広報活動が進められ ている。	○定期的な記事と変化のある 記事を混ぜながら、必要な情 報が盛り込まれている学校 ホームページを更新してい く。 ○Facebook担当を校務分掌の 中に位置づけ、進路部、寄宿 舎と連携しながら更新してい く。 ○日々のより詳しい学校生活 や寄宿舎生活の様子を伝える ために、ログインページをよ り充実させる。 ○感染症対策を徹底したうえ で、できる最大限の公開方法 で、地域や学校への発信や受 け入れを積極的に進めてい く。	○学校ホームページ内の 古い情報を最新のものに 更新した。 ○Facebookについても順 調に更新がされている。 ○ログインページについ ても各学年、寄宿舎で工 夫され更新できている。 ○感染症の流行状況を見 ながら、感染症対策を徹 底し、学校説明会を実施 した。	B	○コンテンツの内容や配置 などを見直して、より分か りやすい学校ホームペー ジに更新していく。 ○今後も内容の充実を意識 して、Facebookやログイン ページを随時更新してい く。 ○今後の感染症の流行状況 を見ながら、地域や学校へ の発信や受け入れを積極的 に進めていく。
		○実際に教育の成果 を知ってもらう機会 が少なくなっており、職業的・社会的 自立を見据えた進路 選択につなげていけ るだけの情報が、地 域の学校に十分に伝 わっていない。	○「琴の浦の教育」につ いて発信したり、地域の 関心や疑問に応えたりす るための工夫ができてい る。	○参加型の啓発・広報活動の 場合は、規模や方法を工夫し 実施する。 ○地域支援活動について各学 校へ周知を図るため、県や地 教委と連携する。 ○地域の教職員を対象とした 情報発信の場を企画・実施す る。	○感染症拡大防止のため、人数・時間・内容等 を制限しながら実施。 ○本年度の地域支援活動 計画について、県と情報 共有し、周辺市町にも紹 介。進捗状況は県と情報 共有中。 ○オープンスクールの延 期	B	○教育の成果を知ってもら うために、できるだけ生徒 の姿が見える形での実施に なるよう、内容を工夫す る。 ○オープンスクールの計画 を再調整し、実施する。
働きやすい職 場・一人一人が 成長できる組織 作り	○校内組織の改編、校内研 修・授業研究の工夫 (人材育成、時間外業務 縮減・業務改善等)	○昨年度は時間外業 務が年間360時間 を超える職員はいな かったが、個々の差 は見られる。	○引き続き、業務改善を 図り、時間外業務を縮減 する。(月45時間・年 間360時間内)	○衛生委員会において、個々 の業務・健康状況の確認や業 務内容等の検討を行い、状況 に応じて適宜声かけ等を行 う。 ○各分掌や分掌間での業務の 見直しや分担を図る。	○衛生委員会において、 個々の時間外業務等の確 認や検討を行い、必要に 応じて声かけ等を行って いる。 ○人事異動等を踏まえた 体制の変化に応じ、分掌 業務の見直しや分担を 図った。	B	○定期的な衛生委員会での 時間外業務や健康状況等の 確認を行い、月毎・年間を 見通した業務の進め方とな るように声掛け等を行う。 ○見直しを行った分掌業務 や業務分担の進捗を確認し ながら、より改善を図って いく。
		支援部・教務部 (再掲)					

評価基準 A:十分達成 [100%] B:概ね達成 [80%] C:変化の兆し [60%] D:まだ不十分 [40%] E:目標・方策の見直し [30%]